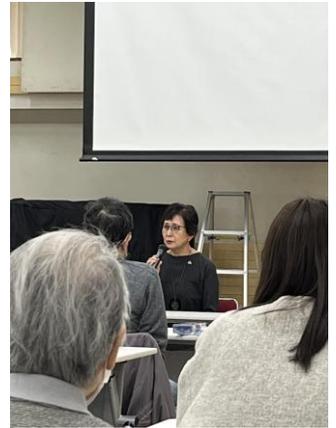


## 被爆二世プラスの 会会員のつどい 開かれる

昨年11月23日、札幌のクリスチャンセンターで、被爆二世プラスの会会員の集いが開かれました。会員外も含めて参加者は46名、二時間半の集いは終始熱気に包まれました。

まず被爆者連絡センターの宮本代表が開会の挨拶。ついで被爆二世の土谷節子さん（帯広）が「被爆80年、二世として思うこと」と題して講演、母の被爆体験とともに母が子や孫たちの健康をいつも不安に思っていたこと



を語り、核兵器の怖さ、放射能の怖さを語り継いで行きたいと力強く語りました。

次いで、広島を訪ねて原爆の惨状を学び、現地の高校生や被爆者と交流してきた札幌西高定時制のグループが、「原爆の怖さと人間の命の重さを忘れずに生きていきたい」と報告、参加者に感銘を与えました。

会員の高橋伸枝さん（室蘭）は、自分で出来ることは



何だろうと考え、遺品を主人公にした手作り絵本やワークショップに挑戦していることを報告しました。

札幌市の被爆者派遣事業では二世も生徒に語るようになってきました。川去裕子会長は、一年間の活動を報告した後、「被爆二世や『プラス』の人たちの様々な取り組みが広がっている。継承は難しい課題だが、さらにいろんなことに挑戦し、核兵器を無くすためにともに頑張りますように」と語りました。

意見交換の場では被爆ピアノの演奏会に取り組んだ高校生平和大使や、被爆体験の継承に取り組んでいる中学・高校教員らの発言が続き、交流を深めました。



## 被爆者の証言集 に関心高まる

昨年8月6日に発刊した被爆者の証言第5集『平和継承』が好評です。核兵器をめぐる情勢が深刻化していること、被爆者が語れなくなる時代がすぐそこまで来ていること、継承の取り組みなどに関心が寄せられているからだと思えます。

その流れの中で、長らく品切れだった第4集『未来への架け橋』を100部復刊しました。お持ちでない方、この機会にぜひお買い求め下さい。

視覚障害者や高齢者のために録音図書を制作しているNPO法人札幌リーダーディングサービス「朗読110番」の皆さんが、サピエ図書館の蔵書用に、第4集と第5集を全編朗読してくれています。



## 会館の当番にご協力下さい！

ノーモア・ヒバクシャ会館は日・月・火の3日間、10時から14時の開館ですが、団体の見学は他の日に開館したりもします。被爆者は語り部と重なることがあります。会館の当番にご協力いただける方、お電話お待ちしております。電話は011-866-9545です。

